



鹿児島県立甲南高等学校

進路指導室だより

平成26年度 第9号 (12月22日発行)

学ぶチカラ

この間、授業中いつも目がキラキラしているMさんから「先生、学力を上げたいのですが…」と相談を受けた。よく聞いてみると模試の結果が悪かったので、勉強方法を教えて欲しいということだった。結局Mさんには、①成績は必ず上がると信じて諦めないこと、②分からないことを考え抜いて理解し、覚えること、③授業を今のように楽しく受けること、の3点をアドバイスした。なぜなら、実は真の「学力」とはこの3点だと思われるからである。

よく言われることだが、学力とはそのまま解釈すれば文字どおり「学ぶチカラ」である。成績はその「学ぶチカラ」の結果として現れてくる。言い換えれば「学ぶチカラ」に応じて成績も伸びる。そのため成績よりもこの「学ぶチカラ」の方が重要だと考えることもできる。

A先生の授業を例にとって考えてみよう。A先生が授業中に大事なポイントについて説明したとする。大事なポイントは板書されることもあれば、単に口頭で伝えられる場合もある。「よし、うまく教えたぞ」とA先生は思い、教室を見渡してみると、様々な生徒がいることに気づく。熱心にノートを取っているBさん。ぼーっと壁を見つめているC君（壁に何か書いてあるのか?）。ただにこにこして先生を見ているDさん。実に多種多様である。

そして、次の授業の日。A先生が再び同じクラスに行き、前回の授業内容について質問をする。ノートを見て答えるBさん。質問内容すら分からない様子のC君。なぜかすらすらと質問に答えるDさん。さて、この中で最も「学力」が高いのは誰だろうか。

授業においては、先生が発する「情報量」はどの生徒にも平等である。しかしその情報を受け止める量（=input）は生徒個々人で異なる。だがこれだけで差ができるわけではない。実はその先にさらに大事な点がある。その受け取ったinputのうち、自分の中に定着した量（=intake）も大事な点である。前述のBさんは、ノートにたくさん書き留めたかもしれないが、覚えてはいない。つまり彼女のintakeは、残念ながら少なかった可能性が高い。逆にDさんは、表面上はにこにこしていただけであったが、intakeが優れていたのかもしれない。ではなぜDさんのようなことが起こるのだろうか。

学力はよく学習時間と指数関数的な関係にあると言われる。実はこれは新しい知識(=input)が本人の持っている知識と結合することと関係する。勉強すればするだけ、本人の持っている知識は増える。既存の知識が多ければ多いほど、inputが他の知識と結びつきintakeになる可能性が高くなる。だから同じ話を聞いても、自分の中にある知識と結びつけば面白く感じるし、定着することも多くなるのである。反対に授業が面白くない人は、まだまだ自分の中にある既存の知識が少なすぎるので、シナプスが結びつくこともなく、退屈を感じるのである。「勉強不足」とは実はそういうことだと考えられる。

授業中いつも目がキラキラしているMさんは、きっと脳内活動が活発なはずだ。どんどん学習している者の「学ぶチカラ」はますます大きくなるからだ。知識量が一次関数的に伸びる一方で、外からのinputを受けた際のintakeは指数関数的に増えているので、学ぶのが楽しくなるのだ。学んでいる際に「そういうことか!」と思うことが増えるのはこういう時だ。シナプスが頭の中で結びつく音が聞こえる者までいる(!)。実はこれが、現役が最後まで伸びる理由である。諦めずに知識量を増やすため、「学ぶチカラ」が急速に高まるのである。

1, 2年生諸君。これが3年生の脳内での出来事である。3年生は最後まで伸びる。そして、「おおっ!」とそれまで結びついていなかったことが結びつく「楽しさ」を享受するのである。

残念ながら、まだその楽しさを感じていない諸君。非常に残念である。同じ授業を受けても「面白い」と感じる者は必ずいるし、誰もがそうなれるポテンシャルを持っている。ただし、成績は必ず伸びると楽観的に自分を信じ、勉強を続けられることが条件である。それができるかどうかは自分次第だし、それを可能にするのが、真の「甲南生」ではないだろうか。また、来年も君たちに授業するのが楽しみである。

センター試験会場決定！

いよいよ大学入試センター試験までもう30日を切っています。3年生は、体調管理には気をつけて万全の体調で試験に臨みましょう。今年のセンター試験は、鹿児島大学医学部（桜ヶ丘）や教育学部、理学部、または県立短大（下伊敷）など、個々人がそれぞれ割り振られた会場で受験です。緊張しますが、普段の力を出せるようがんばってください。1、2年生は、一度、3年生の教室の廊下を静かに歩いてみましょう。教室の雰囲気から、来年度、もしくは2年後の自分の様子が分かります。

『とまり木』について ～やってみよう～

「とまり木」を最近、活用していますか。基礎を振り返り、定着を確認するために、ちょっとした時間を使ってみましょう。それぞれの学年の場所からプリントを取って問題を解き、答案をケースに入れておくと、教科担当者が答えを添えて返却ケースに入れておくという仕組みです。まだ、トライしていない人は、冬休みにぜひ！

内容・分量等

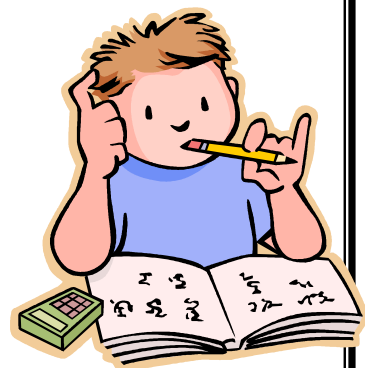
- ・ 振り返りのできる既習事項の確認プリント
- ・ 振り返る時間は1～3分程度
- ・ 週に1問または1回程度

返却までの流れイメージ

- ① 答案に、学年・組・番号を書いて「答案入れ」ケースに入れる
- ② 翌日、「返却ケース」を覗く
- ③ 自分のプリントがあれば、添えてある模範解答で確認

問題・返却ボックス設置場所

進路指導室前の廊下及び3Fの階段踊り場など



冬休みのヒント集：冬休みに向かう前に、読んでみてください。ヒントになるでしょう。

・ 古典に目を通す。 昔の人が書いたものを読んでみましょう。同じ思いをした人がいることが分かります。なんとんだか嬉しくなります。	・ 計画を立てる。 課題一覧を書いて見ましょう。自分で書く頭に入ります。計画を立てて、実際にその通りやってみましょう。	・ 時間を区切る。 時間を50分単位で区切って行動してみよう。集中力は長く続くものではありません。休憩も大事。	・ 辞書を読む。 辞書には結構面白いことが書いてあります。新しい発見を探して辞書を「読む」してみるのも面白いです。
・ 記憶力を上げる。 寝る前に覚えて、朝もう一度復習すると忘れにくくなります。英単語や年表など、覚え方を工夫してみましょう。	・ 速さを高める。 正確さと素早さは二律背反の関係です。問題など素早く解く練習をやってみましょう。	・ 極めよう。 長期休暇は、できないことを何か一つ集中的にできるようにするのに向いています。数学や理科などがお勧めです。	・ 挑戦する。 普段していないことをしてみよう。何か新しいことに挑戦することは良いリフレッシュになります。